

エネルギー摂取量を導くスクリーニング用紙の開発

－若い世代向け－

高内 しおり

目的：宮城県が長年抱える課題としてメタボリックシンドローム（以下メタボ）がある。その対策として運動面ではウォーキング+15、栄養面では塩 eco などの取り組みが県庁主導で行われている。一方これらメタボ予防の対象には中高年者が設定されることも多いが、これからメタボになるかもしれない若い世代への啓発も予防として大きいと考えられる。さて対象者の健康意識をかえる簡単なきっかけ（手法）として、栄養系スクリーニングアンケートの存在がある。食事調査と比べると精度は落ちるものの、おおむね 2～3 分の回答で日々の食事の問題点を判定できるため、一般的な栄養スクリーニング調査のみならず、健康を考えるきっかけ作りのための教材としても活用できると思われる。

以上を背景とし、本研究では食べすぎに着目し、エネルギー摂取量を導く、（特に若い世代を対象とした）宮城県ならではのスクリーニング用紙を作成すれば、宮城県の栄養課題の解決の手助けになるものと仮説を立てて、自宅や学校で簡単にエネルギー摂取量がチェックできるスクリーニング用紙の開発を試みた。

方法：宮城県保健福祉部に平成 28 年宮城県県民健康・栄養調査の使用申請を行い、二次利用の承認を得た（健推第 79 号）。入手したデータは年齢、性別、食品群別摂取量、エネルギー摂取量、歩数であった。欠損値を除いた 639 人のデータのうち、若い世代（15～39 歳）男女 134 人を対象に従属変数をエネルギー摂取量、独立変数を食品群別摂取量とした重回帰式を作成した。重回帰式は、若い世代への運動と栄養の啓発となるよう、男性 1 日 7,000 歩以上・未満、女性 1 日 5,000 歩以上・未満の者が使用できるよう計 4 つ作成した。確率 5% 未満を有意差ありと定義し、最後に残差の正規性を確認して完了とした。

結果・考察：当日、結果の詳細をもとにした考察を発表した。